

小名淚港 国際バルク戦略港湾

東日本地域の エネルギー(石炭)供給を支える拠点港を目指して (安価で安定したエネルギー(石炭)調達を支える港湾 小名浜港)





|小名浜港の特徴

【小名浜港の石炭取扱量】

全国での取扱量 14位

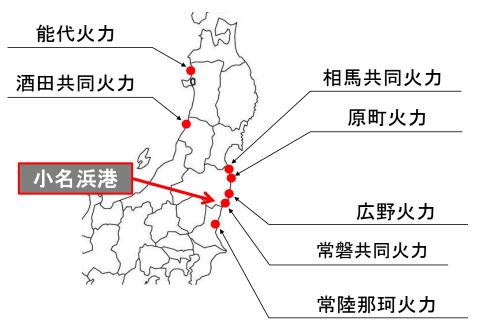
中でも公共埠頭での輸入量全国1位

第1位 小名浜港

2位 四日市港 3位 八戸港

487万トン 230万トン 80万トン 2倍以上

(2008)



小名浜港周辺に石炭火力発電所が多数立地

小名浜港取扱貨物の75%はエネルギー貨物 (2008)全取扱貨物 その他 のうち 460 石炭 (25%)取扱割合 (33%)石油製品 144万t 重油 原油 33% 262万t 363万t (14%)(20%)1,375万的 全取扱量 1.835万トン

エネルギー貨物75%





■連携港湾の追加による供給エリアの拡大

これまでの連携港 酒田港・相馬港 広野港・茨城港 4港

青森港・尻屋岬港 八戸港・能代港 大船渡港・原町港 6港を追加 II

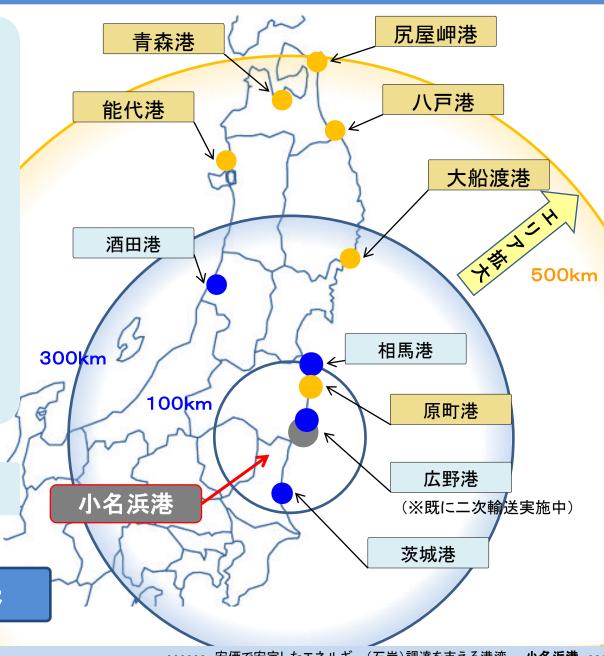
計10港



供給エリアの拡大



東日本の拠点港









- ◎小名浜港の多炭種取扱い⇒年間20種類以上輸入
- ○多炭種輸入の強み⇒多くの連携ユーザーの炭種、積出港とマッチング

共同配船・共同調達が容易 連携の実現可能性大

らくのユーザーへの波及効果大

主体



■企業連携の3つのビジネスモデル

電力会社を主体とした共同配船・共同調達

ビジネスモデル1

- ~2港寄りによる連携~
- ・電力会社間の連携
- ・ケープサイズ船等の 共同配船による 2港寄り

電力会社主体

連携

2港寄り

連携港

ビジネスモデル2

- ~ 共同調達+2港寄り~ _____による連携
- 小名浜港背後石炭 取扱企業の共同調達
- ・ケープサイズ船の 共同配船による 2港寄り

ビジネスモデル3

- ~ 二次輸送+2港寄り~ _____ による連携
 - 東北地方石炭輸入 港湾との二次輸送
 - ・ケープサイズ船の 共同配船による 2港寄り

電 力 会 社

連携

商 社

2港寄り

調整

二次輸送

共同調達

小名浜港 石炭ユーザー 東北地方 石炭ユーザー



■物理的優位性①

東港地区の有効利用と沖合展開

①パナマックス船に対応した公共岸壁整備と供用 (2015年目標)

既にパナマックス船対応の水深14m公共岸壁

整備済

さらに、貨物増加への対応のため東港地区に大水深公共岸壁 整備中

②ケープサイズ船に対応した公共岸壁整備と供用 (2020年代目標)

東港地区の段階整備により 早期効果発現が可能

東港地区

- ➤漁業補償完了
- >埋立護岸完成

水深14m公共岸壁 ⇒水深20m公共岸壁 に計画変更可能

O<u>航路泊地浚渫に伴う発生土</u> 東港地区埋立に受入れ可能

~効率的な事業展開~

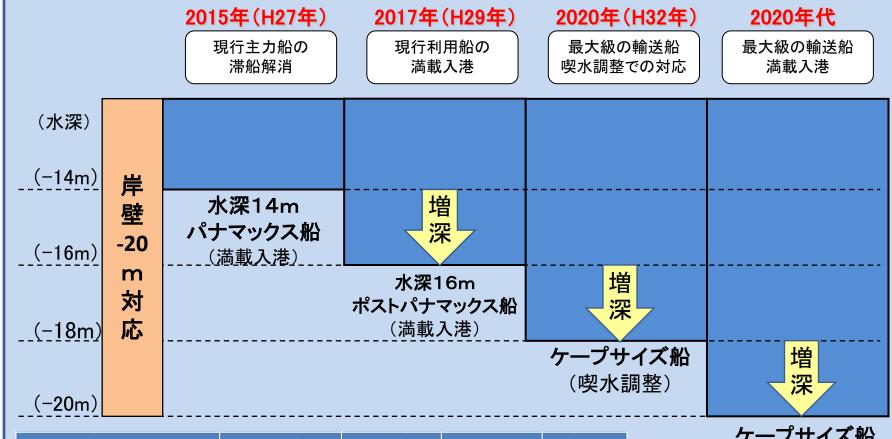


さらに、将来的には沖合展開が可能



■物理的優位性②

段階整備による早期効果発現



船 種	最大積載量	満載喫水	必要水深	船長
パナマックス船	70,000DWT	12.0m	14.0m	225m
ポストパナマックス船※	88,000DWT	14.2m	16.0m	240m
ケープサイズ船	175,000DWT	17.7m	20.0m	292m

ケープサイズ船 (満載入港)

※ポストパナマックス船・・・小名浜港入港最大船型



■安価で安定した石炭調達の実現

ケープサイズ船による大量輸送

調達先の分散化・多様化

リスクの分散と 価格交渉力の強化

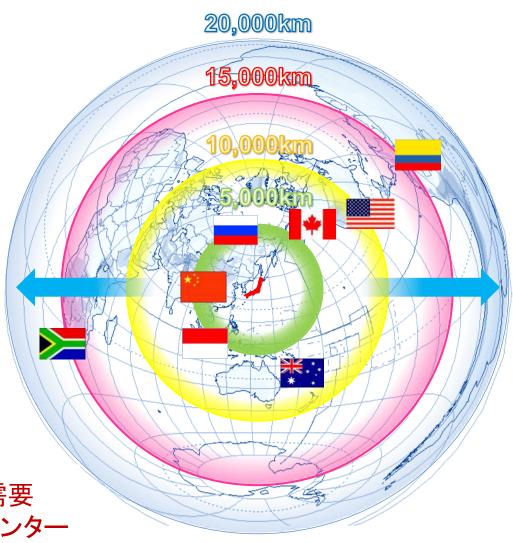
東日本各港への二次輸送

小名浜港への コールセンター機能整備

輸入先の供給変動等に 対する調整能力の向上

特に 小名浜港 では・・・・

- ◆高品質炭に限らない多炭種の需要
- ◆多炭種貯炭に対応したコールセンター
- ◆世界中の石炭が調達可能



安価で安定した石炭調達の実現が可能